


IAM MARKET INSIGHT
マーケット・インサイト

2024年10月28日

代表取締役社長 秋野 充成

今週のポイント いちよしアセットマネジメント**国内株式市場は政局の不安定感を警戒し下落、「選挙は買い」のアノマリー(経験則)が潰える**

「選挙は買い」のアノマリーが潰えました(1969年からの解散・総選挙で、17回連続で選挙期間中は株高)。今回、公示日の前営業日である11日から投票日の前営業日である25日までの日経平均株価は、1,692円(4.27%)の下落となりました。また、11日連続陰線^{※1}を2012年5月以来記録しました(当時は野田民主党政権)。27日投開票の衆議院選挙で自民党と公明党の与党で過半数(233議席)割れ、石破首相が早期退陣に追い込まれ、政局不安定が具現化することを警戒したためです。

海外投資家も日本株売りの姿勢を変えていません。現物と先物を合計して、4月第1週から10月第3週まで5兆9,000億円の売り越しです。また、先物は7月第3週から10月第3週までで4兆5,000億円売り越しとなり、短期投資家の売りポジションが蓄積しています。

世界的株高の流れは不変、トランプ大統領誕生となれば経済再加速が視野に入る

政治イベントをどのように捉えれば良いのか?という点ですが、こちらはマーケットの方向性を変えるものではありません。流れを加速させるか、一時的に停滞させるかのいずれかだと思われます。

今回の場合、米国経済がFRBの予防的利下げで再加速するシナリオ(方向性)がベースです(世界的株高)。自民党が今回の選挙で惨敗し自公でも過半数を割れたとしても、世界的株高の流れが変化することはなく、一時的に日本株だけが売られたとしても、絶好の投資機会と捉え逆張りに徹するべきです。日本の総選挙が一時的停滞要因なら、米国大統領選挙はブースト要因です。トランプ大統領誕生となれば、レッド・スウィープ(トリプルレッド)の可能性が高まり、インフレ再燃が警戒されるものの、経済再加速が視野に入ります。

米国経済の強さを確認する上で重要な雇用統計とISM製造業景況感指数に注目

米国経済の強さを確認する上で、今週は重要な経済指標が発表されます。10月雇用統計とISM製造業景況感指数^{※2}(いずれも11月1日発表)です。雇用統計では、非農業部門雇用者数が11万人増加することが予想されています。9月分は25万人の増加となりましたが、今回はボーイング・大手ホテルチェーンでのストライキや、ハリケーンの影響で計8万人程度の雇用が減少する見込みです。失業率は4.1%(9月:4.1%)、平均時給は前年比で4%の増加(9月:4%)予想です。ISM製造業景況感指数は47.6と2か月連続の改善が予想されています。ISM指数はグローバルの景況感が反映されやすく、10月分は中国の景況感改善で上振れする可能性があります。

日本株が政治リスクで売られた場合は絶好の投資機会と見る

衆議院選挙の結果は、自公で215議席と過半数を大幅に割り込みました。責任を取り石破首相が退陣、あるいは連立の枠組みを拡大させることも考えられますが、来年の参議院選挙を踏まえ少数与党として石破政権が存続する可能性が高いと思われます。その場合、党内融和が最大の課題となり、石破色は完全に封印、アベノミクスに近い経済政策が打ち出されるものと思われます。ただし、少数与党となれば、野党とは是々非々の駆け引きとなり、不安定な政局、決められない政治への不安感から国内株式市場には一時的に売り圧力が増すことが想定されます。しかし、前述の通り、ベースシナリオは世界株高です。日本株が政治リスクで売られた場合は絶好の投資機会です。

～ワンポイント用語集～

※1 陰線…株価の動きをローソク足にしたとき、終値が始値より低くなっている状態を表したものの。反対に、終値が始値より高くなっている状態を表したものを陽線と呼ぶ。カラー表示の場合は青(陽線は赤)で描くが、白黒の場合は黒(陽線は白)となる。陰線が連続することは、買いの勢いが続かないことや売り圧力が強いことを示唆する。

※2 ISM製造業景況感指数…全米供給管理協会(ISM)が公表している米製造業の景況感を示す指数。300以上の企業の購買・供給管理責任者を対象に、受注や価格など10項目についてアンケートを実施し、回答結果から指数を算出している。一般に、数値が50を上回ると景気拡大、50を下回ると景気後退と判断される。